

3日目 オフィチエンシム アウシュビッツ第2収容所 ビルケナウ-2

立花先生のイライラ

ビルケナウについて、しばらく黙ってモニカさんの説明を聞いていた先生でしたが、だんだん、離れてひとりでじっと展示をみるようになりました。



あまり気にとめていなかったのですが、

「あの展示ではわからない」

とぼそっと私にいいました。

「え、そうですか？」

私は第1収容所で聞いたことと重なるな、と思いながら、
なによりも、この雰囲気能耐えられる気がしてきたことだけで満足していました。

しかし、先生は、ガス室跡の立て看板のような小さな展示パネルをみながら
「どこから入って、どこから出るんだ（=いいかえれば死体が運ばれたんだ）？」
「わからない」

しきりに、ぶつぶついうようになりました。
とうとうモニカさんに詰め寄ります。

ここにある写真はどこから入手したのか、
運ばれた人の数はどうやって数えたのか、
名簿など、どうやって記録されていたのか



とにかくイライラしています。
そして周囲に質問を浴びせます。
いままで、こんな先生をみたことはありませんでした。



通称「ザウナ」(Sauna) を見学する参加者。

「ザウナ」では、到着から登録、脱衣、シャワー、囚人服の受け取りまで流れ作業で効率よく行われた。内部に貼られた 2400 枚近くの家族写真は、ユダヤ人が大事にここまでもってきたもの。彼らは「ユダヤ人」である前に、それぞれの人生があったかけがえのない一人の人間であったことを無言で物語っている。